

【環境実践 PR センター】

【情報の発信・受信の拠点】

- ・ 山陽小野田市が進めている環境への取り組みについての情報を発信
- ・ 市民などが行っている取り組みの情報を発信
- ・ 市内にある問題や課題を受信
- ・ 市内外からの環境に対する取り組みへの対応(例. 若者農業体験のコーディネート等)

【販売の拠点】

- ・ 地産地消や地域ブランドを推進(例. パネル展示など啓発を含めたイベント的な朝市の開催等)

【環境学習の拠点】

- ・ 市民からの環境問題を検討
- ・ 市や市民の取り組みに継続性を持たせるため、行政・大学・企業等と連携した学びの場を提供

【観光・交流の拠点】

- ・ 環境への取り組みに興味・関心を持つ人への自由な活動・交流を推進
- ・ 商工会、観光協会などさまざまな関係機関との連携を促進
- ・ 観光農園などの情報発信

④あとかき

バイオマス推進部会が提言しているものの中には、行政主導のバイオマスタウンに向けた取り組みと異なっている点が二つある。まず一つは、上からの問題提起によって進める環境問題ではなく、「市民からの環境問題」であるということ。もう一つは、バイオマスの利活用に向けた取り組みを無関心な市民への啓発・促進するという考えだけではなく、「興味・関心のある市民の参加」を支援するという考えから、環境問題への取り組みや住み良いまちづくりを進めていこうとしている点である。

「市民からの環境問題」とは、地球温暖化対策やそれによる政府の働きかけによって環境問題やまちづくりに取り組むのではなく、山陽小野田市に暮らす市民が日常的に接している現実の課題からの環境問題であり、つまり、地域に根ざした環境問題のことである。地域に根ざした環境問題には、その地域にある独自の課題とさまざまな市民の活動がある。この課題の解決の過程こそが地域の文化と呼べるが、この地域の文化を作り上げるためには、どう設備投資を行うかではなく、個々の課題に主体的に関わって解決へと向かおうとする市民の積極的・進歩的な実践の積み重ねが必要となる。

当部会に参加した人たちの中には個々の実践を積み重ねているのだが、その実践が広域化していかないといった課題を抱えている。そこで、ともに問題を共有し、乗り越えていくことを目指すための集いの場「環境実践 PR センター」(仮称)の設置を提案した。そこでは、さらなるバイオマスの利活用を推進し、市民の興味・関心を生み出し、身近なところから環境問題に取り組む仲間を増やすことを想定している。

そして、「環境実践 PR センター」に市民が主体的に集まり、交流し、論議し、学ぶことにより、住み良いまちづくりに向かっての強い原動力が生まれ、その営みから発するアイディア・知恵・実践が、山陽小野田市独自の文化、歴史、思想を作っていくことにもつながると確信する。これからは、人と人の交流、人と自然・世界との交流による魅力あるまちづくりが重要となってくる。私たちは山陽小野田市のことだけでなく、他の地域や自然・世界との共生も視野に入れたまちづくりを実践し、本市とわたしたち一人ひとりの明るい未来への展望をともに切り拓いていくことを願っている。



▲廃油から作った燃料で走るトラック。てんぷら油も使い捨てせずに燃料化しましょう。